

病気と健康の新知识

Dr. 週刊新潮

ドクター

SHINCHO MOOK



- 「がん」超早期発見と最先端治療 **知らないと後悔する**
- がんに打ち克った著名人たちの後半生
- 厳冬と盛夏を**回る**「免疫力アップ」意外な新常識
- 「ドクター秋津」の長生きするのはどっち？
- 人は120歳まで生きられる**
「ドクター南雲」3つの忠告
- 「糖質制限ダイエット」「プリン体」の罠
- 「平均寿命より長生き」の老化予防
- 理想的な「腸内フローラ」栽培法
- 「認知症」800万人時代の**完全ボケ予防**

2017年



良医の拠点
肛門治療

肛門、消化器、泌尿器診療に
特化した病院として
さまざまな選択肢の中から
最適な治療法の
アドバイスを行う

川崎 俊一

理事長・院長

かわさき・しゅんいち

医学博士。1995年、東京医科大学卒業。東京医科大学茨城医療センター消化器外科などを経て、2014年より現職。日本大腸肛門病学会認定大腸肛門科専門医、日本外科学会認定外痔専門医



ジオン注射療法 切除術を行い
内痔核の手術で実績を上げる

川崎胃腸科肛門科病院は、肛門、消化器、泌尿器診療に特化した病院として日立市、常陸太田市、高萩市、水戸市ほかの茨城県内はもちろん、全国各地から患者さんが来院している。

「患者さんにやさしく接すること」をモットーとする川崎俊一院長は、国内有数の肛門疾患の治療実績を持つ医療機関などで長年、臨床経験を重ね、最先端治療に取り組んできた。「病気を治すだけでなく肛門機能の温存を心がけ、痔に代表される肛門疾患の約9割が手術以外の治療法で改善しています。しかし、残りの約1割は重度の内痔核や痔ろうで、手術が必要となります。肛門疾患の2015年11月、2016年10月の手術件数700件で、県内ではトップ

ブクラスにあります」

内痔核の手術では、ジオン注射療法、切除術を行い、ジオン注射と切除術を組み合わせた併用療法でも実績を上げています。「注射療法は日帰りが可能で、術後の疼痛や出血のリスクが少ないという利点があります。その一方で、切除術に比べると再発率が高いため、さまざまな選択肢の中から、患者様の状態と希望に合わせて最適な治療法のアドバイスを行っています」

川崎院長も週に一度、みと肛門クリニックで診療を行う。こうした本院との連携、交流により水戸市周辺の患者さんから高い評価を受けている。「痔はがんと違って命にかかわる病気ではないため、医者にかからず我慢している人が少なくありません。ただ、放置すると悪化の一途をたどり、日常生活に支障をきたしQOL(生活の質)が低下したりします。当院では、人員も整備・拡充し、高度医療を提供すること、そうした患者さんを救っていきたくと思っています」と川崎院長は抱負を述べる。

肛門内科・外科に特化した
クリニックを水戸市に開院

水戸市周辺から来院する患者さんへの利便性を考慮して、2015年9月に水戸市の茨城県庁そばに肛門科に特化したクリニックであるみと肛門クリニックを開院した。

同院の須田和義院長は、肛門科診療20年の豊富な実績があり、本院へ